

スウィング・ジャズ
ジャングル・ビート

スウィング・ジャズの特徴

スウィング・ジャズは、ジャズの中でも比較的初期の頃に誕生した4ビートの基本ともいえるジャンルです。

典型的なシンバル・レガートと、4つ打ちのキック、2拍4拍のスネアを中心としたシンプルなビートながら、幅広く対応できるポテンシャルを持っています。

スウィング・ジャズの特徴は以下の通りです。

- 4ビートを基調としたシンプルなビート
- いうまでもなく「裏ノリ」
- ジャズ特有のルーズでふくよかな音色

4ビートを基調としたシンプルなビート

スウィング・ジャズは4ビートが基本。
「チーン チッチ チーン チッチ」というシンバル・レガートは、
ジャズを象徴するリズムといっても過言ではないでしょう。

また、スウィング・ジャズの特徴として、
4つ打ちのキックと2 & 4拍のスネアがしっかりと刻まれる点が
大きな特徴です。

これにより、ドラム全体で安定したビートを実現し、
ビッグバンドのような大編成でも
しっかりと土台を支えられる作りになっているところがポイントですね。

いうまでもなく「裏ノリ」

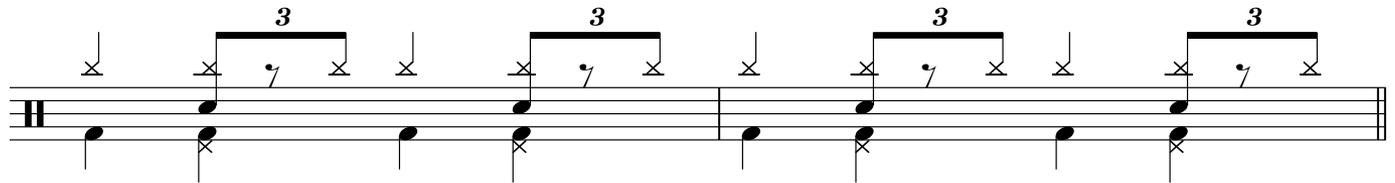
実は、ビッグバンドそのものは白人が主体となって作られた編成。

ですが、そこで演奏される「スウィング・ジャズ」は
黒人発祥の「ジャズ」の一種であることに変わりはありません。

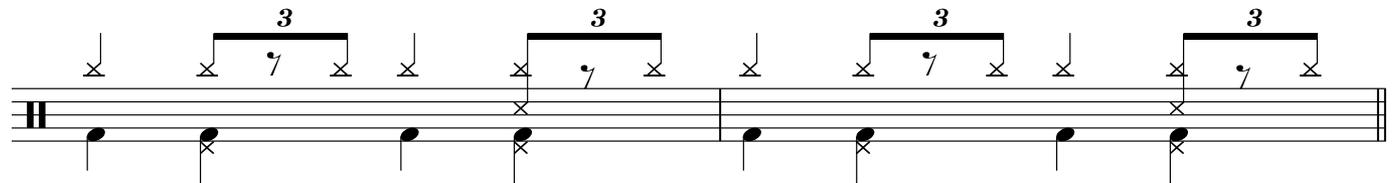
いうまでもなく、そのビートは「裏ノリ」となりますので覚えておきましょう！

スウィング・ジャズ

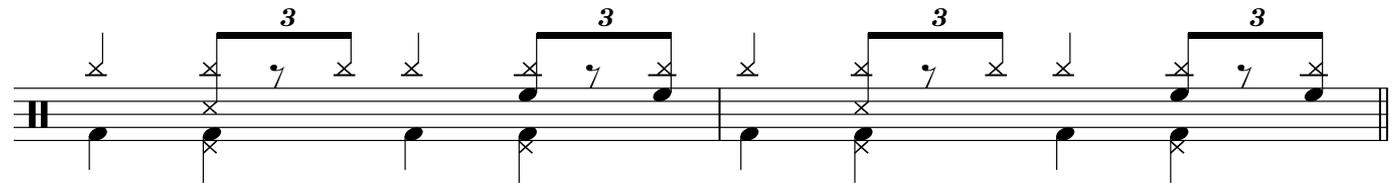
パターン①



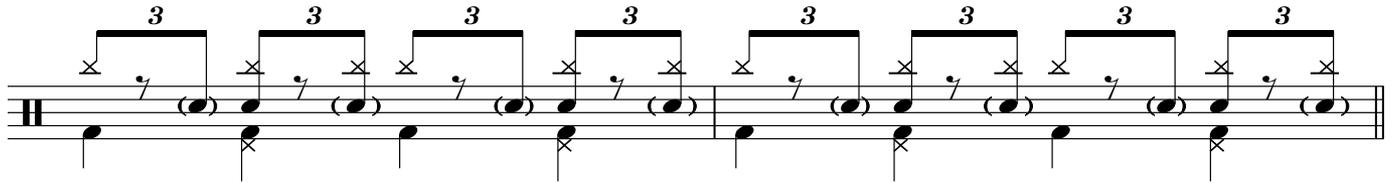
パターン②



パターン③

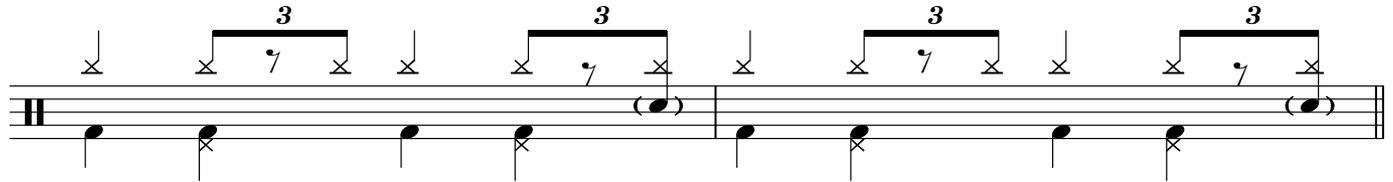


パターン④

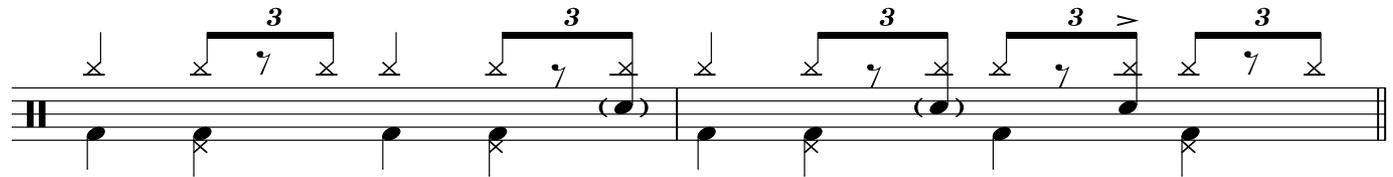


スウィング・ジャズ

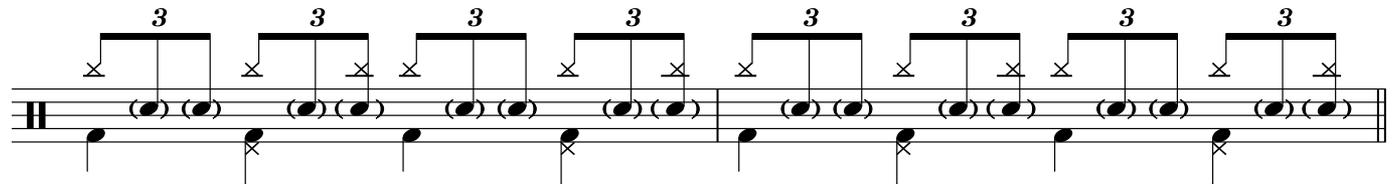
パターン⑤



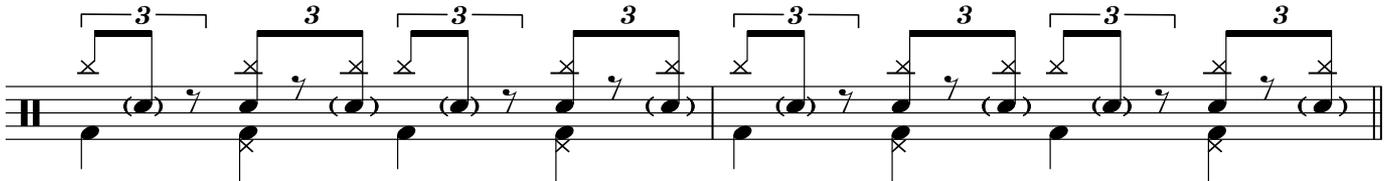
パターン⑥



パターン⑦



パターン⑧



ジャングル・ビートについて

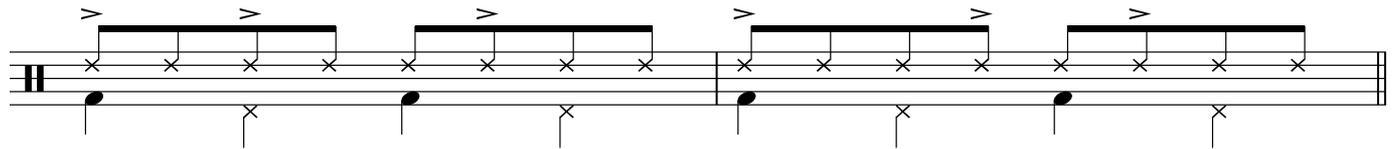
「ジャングル・ビート」とは、フロアタムなどの低音ドラムを使って演奏される重心の低いパワフルなビートのこと。

「SING, SING, SING」のイントロ部分では、まさにこの「ジャングル・ビート」が用いられています。

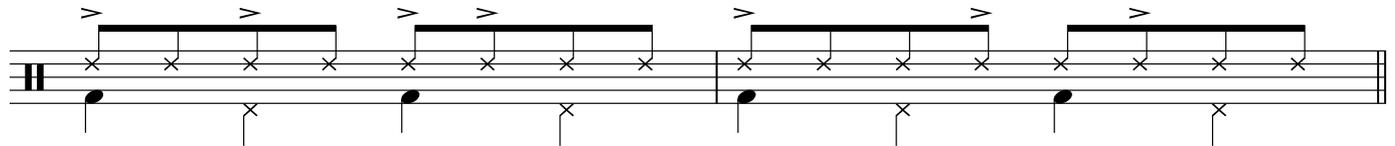
その名の通り、ジャングルを彷彿させる野生味あふれるビートが特徴です！

ジャングル・ビート

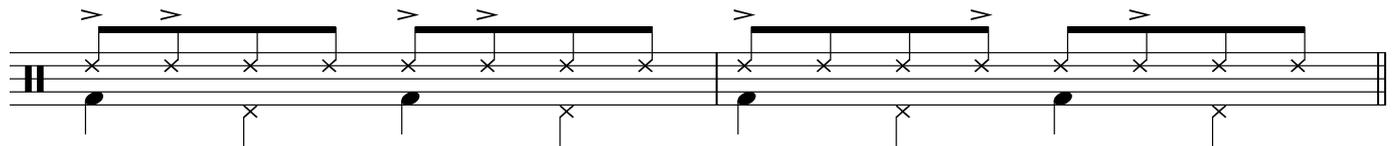
パターン①



パターン②



パターン③



スウィング・ジャズの音色選び

音色は「ジャズ特有のルーズでふくよかな音色」が特徴。
ブルースやカントリーよりさらにルーズなアタック感を持つ
ソフトな音色がぴったりマッチします。
他のジャンルに比べてキックのピッチ（音程）が高めなのも特徴的です。

全体の印象としては、あまりクリアすぎない方がそれらしくなりますので、
ルーム感（リバーブ感）も適度に足してあげると良いでしょう。

- ルーズなアタック（打音）
- ピッチ（音程）の高いキック
- クリアすぎないサウンド（空気感）

スウィング・ジャズの打込みのコツ

■ スウィング・ジャズのベロシティ

スウィング・ジャズは、4ビートにおけるベロシティの基本がそのまま使えます。

シンバル・レガートは、2 & 4拍目が最もつよく、次点が1 & 3拍目アタマ、

3連ウラはさりげなく鳴らすのがコツでしたね。

4つ打ちキックは極力均一に、2 & 4拍目のスネアも原則均一でも問題ないでしょう。

全体的にベロシティを控えめに、ソフトなタッチ感を表現してあげると良いかと思います。

■ スウィング・ジャズのクオンタイズ

こちらも、4ビートにおけるクオンタイズの基本に則りましょう。

とくに、シンバル・レガートやスネアのコンピングで登場する

3連ウラの扱いがポイントになるかと思います。

しっかりスウィングさせつつ、楽曲のテンポに応じて

気持ちの良い位置を探ってみると良いでしょう。

ジャングル・ビートの打込みのコツ

■ ジャングル・ビートのベロシティ

ロックンロールでご紹介した「セカンド・ライン」同様に、「ジャングル・ビート」も固有のアクセント感をもつビートです。ベロシティの設定においては、アクセント部分をしっかりと聞かせつつ、それ以外のノートは控えめに打ち込んであげましょう。

■ ジャングル・ビートのクオンタイズ

ジャングル・ビートも、シャッフルでの演奏が前提となります。8分音符のタムには強めにスウィングを入れて、しっかりとシャッフル感を出していきましょう。